

枚方市商工だより

(2009年7月)

[主な内容]

地域経済動向調査VOL - 79 (2009年4~6月)

枚方市

【調査の概要】

本調査は、枚方市の委託事業として北大阪商工会議所が実施しているもので、地域経済の総合的な動向を把握することで、産業振興のための基礎資料として利用するとともに、地域の経営者等へ情報提供している。

調査対象は、製造業、建設業、卸売業、小売業、飲食業、サービス業の6業種で、市内の主要な産業を網羅している。

企業規模は、製造業は全数を、その他の業種は、従業者規模5人以上の事業所から無作為抽出している。

調査方法は、往復はがきによるアンケート方式で、2009年7月上旬に1,024社に発送し、回答期限までに253社から回答が得られた。

全体の回答率は24.7%で、業種別・規模別回答状況は、表1、表2の通りである。

表1. 業種別回答状況

集約業種名		母集団	回答数	回答率
製造業	食料・飲料	37	7	18.9
	繊維・衣服	64	7	10.9
	木材・家具	19	1	5.3
	紙・出版・印刷	38	6	15.8
	化学・プラスチック	56	17	30.4
	鉄鋼・非鉄金属	28	14	50.0
	金属製品	67	16	23.9
	一般機械	72	18	25.0
	電気機械	39	10	25.6
	その他の製造業	43	11	25.6
製造業計		463	107	23.1
非製造業	建設業	111	43	38.7
	卸売業	65	13	20.0
	小売業	194	39	20.1
	飲食店	67	15	22.4
	サービス業	124	36	29.0
非製造業計		561	146	26.0
合計		1,024	253	24.7

表2. 規模別回答状況

規模別	製造業			非製造業			全体		
	母集団	回答数	回答率	母集団	回答数	回答率	母集団	回答数	回答率
1～3人	103	15	14.6	31	10	32.3	134	25	18.7
4～9人*	108	20	18.5	235	49	20.9	343	69	20.1
10～19人	79	32	40.5	161	40	24.8	240	72	30.0
20～29人	35	7	20.0	58	22	37.9	93	29	31.2
30～49人	49	11	22.4	40	12	30.0	89	23	25.8
50～99人	42	12	28.6	20	7	35.0	62	19	30.6
100～199人	30	7	23.3	11	5	45.5	41	12	29.3
200～299人	6	1	16.7	3	1	33.3	9	2	22.2
300人以上	11	2	18.2	2	0	0.0	13	2	15.4
合計	463	107	23.1	561	146	26.0	1,024	253	24.7

*)非製造業の規模4～9人は5～9人である。

【 概要 】

製造業の生産額、出荷額には、若干の改善がみられるが、前年同期比では生産は大きく落ち込み、設備投資も大きく後退している。

非製造業の売上額、採算状況は、D.I のマヰ幅は縮小しているが、前年同期比では売上額、客数、共に揃って大きく後退している。

向こう3ヶ月の景気見通しは、製造業、非製造業ともに好転する見方は少なく、悪化見通しが多数を占めている。

政府は景気の基調判断を4ヶ月ぶりに据え置き、「厳しい状況にあるものの、このところ持ち直しの動きがみられる」とした8月の月例経済報告を決めた。5月以降、景気判断を3ヶ月連続で上方修正し、6月には事実上の「景気底打ち」を宣言したが、雇用情勢に関しては「急激に悪化している」と懸念を表明した。

日銀も8月の金融経済月報で、企業の資金繰りを、前月の「幾分改善している」から「なお厳しいとする先が多いものの、改善の動きが続いている」と判断を前進させた。しかし、中小企業では、製造業の業況判断DIはマヰ57.0Pで横這、非製造業ではマヰ44.0Pと2年3ヶ月連続で悪化した。

帝国データバンクによると、7月の倒産件数は1,204件で、前月比では7.0%の減少となったものの、前年同月比では6.5%の増加となった。14ヶ月連続で前年同月を上回り、2ヶ月連続で1,200件を超える高水準を記録した。負債5,000万円未満の小規模倒産が、前年同月比15.0%増加の553件発生したこと、大手メーカーの生産調整の余波の広がり、「緊急保証制度」などの中小企業支援策の効果が限定的なものにとどまったことなどが背景にあるとみられる。資本金別でも、個人経営と資本金1,000万円未満の小規模企業が49.3%を占め、小規模倒産が目立っている。

総務省が発表した6月の完全失業率は5.4%で、2003年4月に記録した過去最悪の5.5%に迫っている。雇用や所得への不安感による購買意欲の減退で、企業収益が圧迫され、景気の先行きは依然として不透明である。8月末の衆議院議員選挙後の政権担当政党には、景気回復へ向けて、一層の努力が求められる。

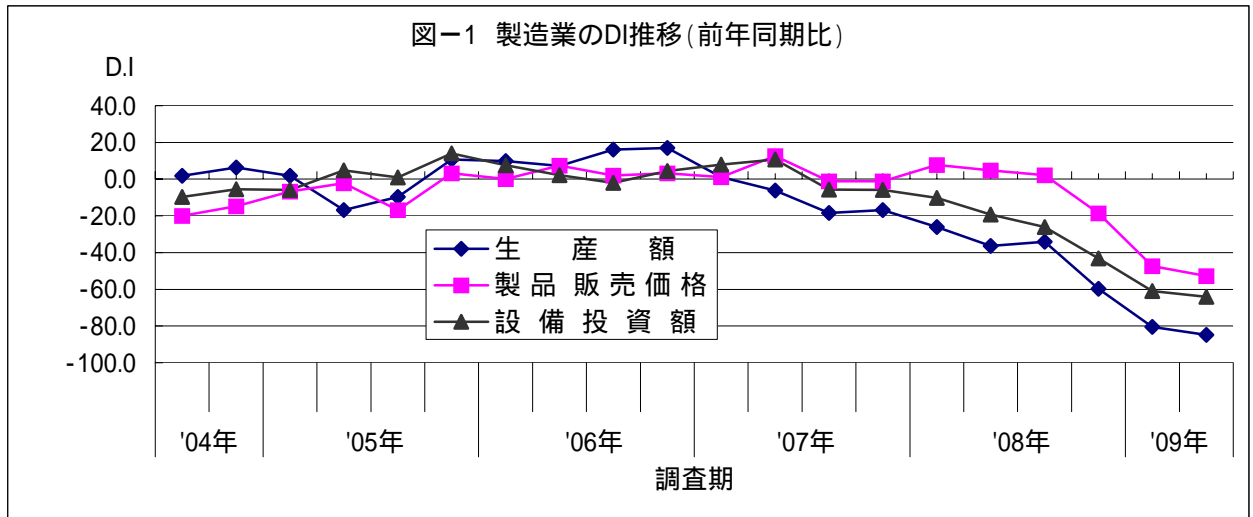
2009年第 四半期(4～6月)の枚方市製造業の生産額、出荷額はともに大きく落ち込んでいる。受注状況も、減少企業が依然として多く、改善がみられない。

製品在庫額は、適正水準にある企業が多く、過剰感は弱まっている。原材料仕入価格は、値下がり傾向に歯止めがかかってきた。

製品販売価格は、依然として値下がり傾向がみられる。採算状況は、悪化企業が大勢を占め、一段と厳しい状態にある。

資金繰りは、悪化企業が半分近くを占めている。

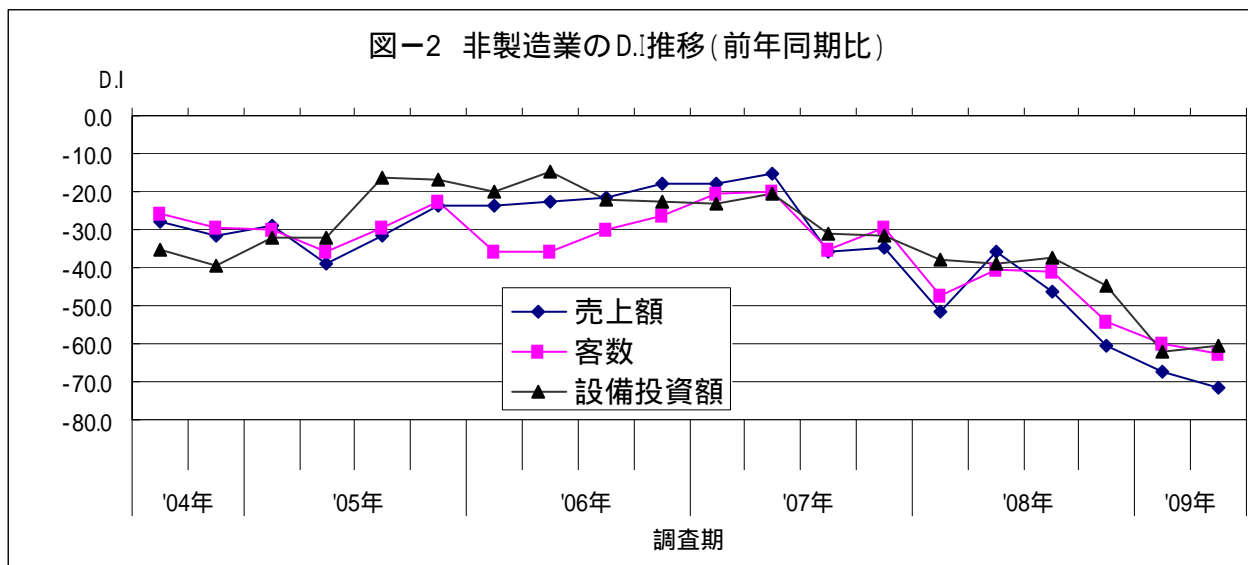
前年同期比では、生産額は減少企業が大幅に増加している。製品販売価格は、横這が減少し、値下げ企業が増えている。設備投資額は、減少が半数以上を占め低迷状態にある。(図1)



非製造業の売上額、採算状況には、若干の改善がみられる。資金繰りは、小売、飲食、サービス業では悪化が半数以上を占め、厳しい状況にある。

前年同期比では、売上額は大きく落ち込んでいる。客数も減少しており、依然として低迷状態が続いている。(図2)

向こう3ヶ月の景気見通しは、製造業、非製造業ともに悪化見通しが多数を占めている。(表3)



(注) 景気動向指標 (D.I = Diffusion Index)

= (増加・好転した企業の割合) - (減少・悪化した企業の割合)

表3 . 総括表(DIの推移)

景気動向指標			'04年		'05年				'06年				'07年				'08年				'09年	
製 造 業	前期 比	生産額	4.7	0.0	-0.9	-13.5	-1.9	15.8	0.0	-2.1	14.9	20.0	-7.4	-17.3	-17.4	-1.1	-26.9	-33.6	-33.0	-56.1	-70.8	-55.7
		出荷額	3.8	-2.8	-4.7	-14.9	2.0	19.4	-2.4	-4.3	20.4	19.1	-5.3	-14.4	-16.5	-1.1	-22.8	-28.0	-35.4	-58.8	-68.1	-58.5
		製品在庫額	-7.1	-10.4	-12.7	-13.1	-10.0	-5.5	-6.7	-14.6	-7.4	-9.0	-6.6	-6.5	-12.8	-6.0	-12.5	-14.3	-9.7	-27.5	-23.3	-21.8
		原材料仕入額	69.5	61.1	66.0	64.4	51.0	46.7	53.2	65.3	66.7	54.3	57.9	64.6	55.6	62.8	63.0	81.3	67.7	6.3	-17.0	-1.9
		製品販売価格	-7.6	-13.1	-1.9	-8.0	-14.7	-1.1	-1.3	4.2	1.0	-3.3	-4.3	5.3	0.0	8.0	4.3	3.8	1.0	-19.8	-38.4	-38.7
		採算状況	-43.4	-26.6	-35.2	-36.0	-32.7	-12.8	-12.2	-33.3	-28.0	-19.1	-33.7	-33.7	-33.0	-48.3	-35.9	-54.2	-56.7	-63.2	-74.6	-63.6
		資金繰り	-13.3	-13.8	-8.5	-17.0	-9.7	2.2	0.0	-13.8	-5.1	-5.4	-14.9	-6.2	-15.4	-25.0	-16.3	-27.1	-33.0	-37.2	-52.7	-45.3
	受注状況	-1.9	-7.3	-5.7	-21.3	-8.7	7.5	6.1	-1.0	6.9	9.6	-10.5	-13.4	-27.2	-5.7	-23.7	-38.7	-43.3	-67.5	-79.8	-69.2	
	向こう3ヶ月の景況	2.9	-18.2	-13.0	-11.4	1.9	2.2	8.6	8.4	10.9	-2.1	-5.4	-4.1	-7.8	-24.4	-30.0	-34.3	-48.5	-77.0	-67.3	-38.3	
	前同 期 年比	生産額	1.9	6.4	1.9	-16.9	-9.7	10.6	9.8	7.3	16.2	17.0	1.1	-6.1	-18.5	-16.9	-26.1	-36.4	-34.0	-59.6	-80.5	-84.9
製品販売価格		-20.0	-14.8	-6.7	-2.3	-16.8	3.2	0.0	7.4	2.1	3.3	1.1	12.6	-1.1	-1.1	7.7	4.7	2.1	-18.6	-47.3	-52.8	
設備投資額		-9.7	-5.6	-5.9	4.7	1.0	14.0	7.5	2.2	-2.0	4.4	7.9	10.6	-5.6	-5.9	-10.2	-19.2	-26.0	-43.2	-60.9	-64.1	
非 製 造 業	前期 比	売上額	-29.2	-22.0	-33.8	-34.5	-24.8	-14.3	-23.9	-6.4	-21.7	-9.3	-20.2	-14.4	-22.6	-25.2	-42.2	-40.3	-38.4	-52.7	-66.7	-47.9
		採算状況	-39.1	-38.7	-43.8	-41.5	-51.9	-26.6	-43.3	-35.0	-39.1	-30.7	-34.4	-30.3	-43.1	-46.9	-55.6	-57.0	-55.5	-66.4	-73.9	-60.0
		資金繰り	-29.6	-30.6	-31.3	-26.4	-30.3	-18.2	-22.7	-25.4	-27.1	-20.5	-25.4	-18.0	-29.8	-30.6	-37.3	-38.9	-43.2	-44.3	-56.3	-46.2
	向こう3ヶ月の景況	-22.8	-36.5	-34.7	-34.5	-27.5	-19.9	-10.7	-22.8	-23.9	-25.8	-26.0	-30.1	-34.1	-47.3	-54.1	-52.8	-60.0	-74.0	-67.4	-50.7	
	前同 期 年比	売上額	-28.1	-31.8	-29.2	-38.7	-31.4	-23.7	-23.6	-22.9	-21.7	-17.8	-18.1	-15.4	-35.5	-34.7	-51.5	-35.7	-46.5	-60.3	-67.4	-71.7
客数・販売先数	-25.6	-29.4	-29.8	-35.8	-29.7	-22.6	-35.8	-35.6	-29.9	-26.5	-20.6	-19.8	-35.2	-29.7	-47.3	-40.4	-41.1	-54.3	-60.2	-62.7		
設備投資額	-35.5	-39.3	-31.9	-31.9	-16.3	-17.0	-20.2	-14.9	-22.1	-22.6	-23.1	-20.5	-31.3	-31.5	-37.7	-38.8	-37.4	-44.9	-62.2	-60.3		

業種別の景気動向

1. 製造業の景気動向

【生産額】

前期と比べた当期（2009年4～6月）の生産額は、増加10.4%、横這23.6%、減少66.0%となっている。減少が大幅に増加を上回っている。総合D.Iはマイナス55.7P(ポイント)となっている。

業種別に見ると、全業種で減産企業が増産企業を上回っている。

前年同期比では、増加3.8%、横這7.5%、減少88.7%となっており、総合D.Iはマイナス84.9Pとマイナス幅が拡大している。

業種別にみると、増産企業は、4業種にみられるが、全ての業種で減産が増産を上回っている。（表4）

表4. 生産額

業種	当期の生産額は										
	前期に比べ					前年同期に比べ					
	件数	増加	横這	減少	D.I	件数	増加	横這	減少	D.I	
製 造 業	食料・飲料	7	14.3	42.9	42.9	-28.6	7	0.0	42.9	57.1	-57.1
	繊維・衣服	7	28.6	0.0	71.4	-42.9	7	14.3	0.0	85.7	-71.4
	木材・家具	1	0.0	0.0	100.0	-100.0	1	0.0	0.0	100.0	-100.0
	紙・出版・印刷	6	16.7	0.0	83.3	-66.7	6	0.0	0.0	100.0	-100.0
	化学・プラスチック	17	5.9	41.2	52.9	-47.1	17	5.9	17.6	76.5	-70.6
	鉄鋼・非鉄金属	14	21.4	35.7	42.9	-21.4	14	7.1	0.0	92.9	-85.7
	金属製品	15	6.7	6.7	86.7	-80.0	15	6.7	0.0	93.3	-86.7
	一般機械	18	0.0	27.8	72.2	-72.2	18	0.0	0.0	100.0	-100.0
	電気機械	10	10.0	30.0	60.0	-50.0	10	0.0	0.0	100.0	-100.0
	その他の製造業	11	9.1	9.1	81.8	-72.7	11	0.0	18.2	81.8	-81.8
製造業計	106	10.4	23.6	66.0	-55.7	106	3.8	7.5	88.7	-84.9	

【出荷額】

当期の出荷額は、増加 9.4%、横這 22.6%、減少 67.9%となっている。総合 D.I は マックス 58.5P で、前期に比べると改善している。

業種別では、木材・家具、一般機械以外の業種で増加企業が見られるものの、全ての業種で、減少企業が増加企業を上回っている。(表 5)

表 5. 出荷額

業 種	出荷額は 前期に比べ					
	件数	増加	横這	減少	D.I	
製 造 業	食料・飲料	7	14.3	42.9	42.9	-28.6
	繊維・衣服	6	16.7	0.0	83.3	-66.7
	木材・家具	1	0.0	0.0	100.0	-100.0
	紙・出版・印刷	6	16.7	0.0	83.3	-66.7
	化学・プラスチック	17	5.9	35.3	58.8	-52.9
	鉄鋼・非鉄金属	14	21.4	35.7	42.9	-21.4
	金属製品	16	6.3	6.3	87.5	-81.3
	一般機械	18	0.0	27.8	72.2	-72.2
	電気機械	10	10.0	30.0	60.0	-50.0
	その他の製造業	11	9.1	9.1	81.8	-72.7
製造業計	106	9.4	22.6	67.9	-58.5	

【製品在庫額】

前期と比べた製品在庫額は、不足 5.9%、適正 66.3%、過剰 27.7%となっている。適正水準の企業が半数を占めている。総合 D.I は マックス 21.8P と、前期と同じく過剰傾向であるものの、若干の改善が見られる。

業種別では、電気機械を除く業種は、適正水準の企業が大半を占めている。(表 6)

表 6. 製品在庫額

業 種	在庫額は 前期に比べ					
	件数	不足	適正	過剰	D.I	
製 造 業	食料・飲料	7	0.0	100.0	0.0	0.0
	繊維・衣服	6	33.3	50.0	16.7	16.7
	木材・家具	1	0.0	100.0	0.0	0.0
	紙・出版・印刷	6	0.0	83.3	16.7	-16.7
	化学・プラスチック	17	0.0	64.7	35.3	-35.3
	鉄鋼・非鉄金属	13	0.0	84.6	15.4	-15.4
	金属製品	15	13.3	60.0	26.7	-13.3
	一般機械	18	5.6	50.0	44.4	-38.9
	電気機械	8	12.5	37.5	50.0	-37.5
	その他の製造業	10	0.0	80.0	20.0	-20.0
製造業計	101	5.9	66.3	27.7	-21.8	

【原材料仕入額】

前期と比べた原材料仕入額は、値上がり 17.0%、横這 64.2%、値下がり 18.9%である。総合 D.I はマイナス 1.9P で、前期に比べ、値下がり幅は大幅に縮小している。

業種別では、繊維・衣服、化学・プラスチックでは値上りが値下がりを上回っている。その他では、木材・家具、紙・出版・印刷を除いて値下がり値上りを上回っている。(表 7)

表 7. 原材料仕入額

業 種	仕入額は 前期に比べ					
	件数	値上	横這	値下	D.I	
製 造 業	食料・飲料	7	14.3	57.1	28.6	-14.3
	繊維・衣服	6	33.3	66.7	0.0	33.3
	木材・家具	1	0.0	100.0	0.0	0.0
	紙・出版・印刷	6	33.3	33.3	33.3	0.0
	化学・プラスチック	17	29.4	64.7	5.9	23.5
	鉄鋼・非鉄金属	14	28.6	35.7	35.7	-7.1
	金属製品	16	6.3	68.8	25.0	-18.8
	一般機械	18	5.6	83.3	11.1	-5.6
	電気機械	10	10.0	70.0	20.0	-10.0
	その他の製造業	11	9.1	72.7	18.2	-9.1
製造業計	106	17.0	64.2	18.9	-1.9	

【製品販売価格】

前期と比べた製品販売価格は、値上がり 1.9%、横這 57.5%、値下がり 40.6%となっている。横這が多数を占めているが、総合 D.I はマイナス 38.7P で、依然として値下がり企業が増加している。

業種別では、値上がり企業は化学・プラスチック、鉄鋼・非鉄金属の 2 業種でみられる一方、値下がり企業は木材・家具以外の全ての業種にみられる。

前年同期比では、値上がり 2.8%、横這 41.5%、値下がり 55.7%となっている。総合 D.I はマイナス 52.8P で、引き続き値下がり傾向にある。

業種別では、全ての業種で下落傾向が顕著になってきた。(表 8)

表 8. 製品販売価格

業 種	当期の販売価格は										
	前期に比べ					前年同期に比べ					
	件数	値上	横這	値下	D.I	件数	値上	横這	値下	D.I	
製 造 業	食料・飲料	7	0.0	71.4	28.6	-28.6	7	0.0	71.4	28.6	-28.6
	繊維・衣服	6	0.0	83.3	16.7	-16.7	6	0.0	50.0	50.0	-50.0
	木材・家具	1	0.0	100.0	0.0	0.0	1	0.0	0.0	100.0	-100.0
	紙・出版・印刷	6	0.0	33.3	66.7	-66.7	6	0.0	33.3	66.7	-66.7
	化学・プラスチック	17	5.9	64.7	29.4	-23.5	17	11.8	41.2	47.1	-35.3
	鉄鋼・非鉄金属	14	7.1	64.3	28.6	-21.4	14	0.0	28.6	71.4	-71.4
	金属製品	16	0.0	56.3	43.8	-43.8	16	0.0	50.0	50.0	-50.0
	一般機械	18	0.0	44.4	55.6	-55.6	18	0.0	27.8	72.2	-72.2
	電気機械	10	0.0	40.0	60.0	-60.0	10	0.0	40.0	60.0	-60.0
	その他の製造業	11	0.0	63.6	36.4	-36.4	11	9.1	54.5	36.4	-27.3
製造業計	106	1.9	57.5	40.6	-38.7	106	2.8	41.5	55.7	-52.8	

【採算状況】

前期に比べた採算状況は、好転6.5%、横這23.4%、悪化70.1%となっている。総合D.Iはマイナス63.6Pで、マイナス幅が縮小したものの、依然として悪化傾向がみられる。

業種別では、好転企業は5業種にみられるが、悪化企業は全業種でみられる。(表9)

表 9. 採算状況

業 種	採算状況は 前期に比べ					
	件数	好転	横這	悪化	D.I	
製	食料・飲料	7	0.0	57.1	42.9	-42.9
	繊維・衣服	7	14.3	14.3	71.4	-57.1
	木材・家具	1	0.0	0.0	100.0	-100.0
造	紙・出版・印刷	6	0.0	50.0	50.0	-50.0
	化学・プラスチック	17	11.8	41.2	47.1	-35.3
	鉄鋼・非鉄金属	14	7.1	35.7	57.1	-50.0
	金属製品	16	6.3	6.3	87.5	-81.3
	一般機械	18	0.0	11.1	88.9	-88.9
業	電気機械	10	20.0	0.0	80.0	-60.0
	その他の製造業	11	0.0	18.2	81.8	-81.8
	製造業計	107	6.5	23.4	70.1	-63.6

【資金繰り】

前期と比べた当期の資金繰りは、好転3.8%、横這47.2%、悪化49.1%となっている。総合D.Iはマイナス45.3Pと、前期に比べると僅かに改善している。

業種別では、好転企業は4業種にみられるが、悪化企業は、全業種にみられる。(表10)

表 10. 資金繰り

業 種	資金繰りは 前期に比べ					
	件数	好転	横這	悪化	D.I	
製	食料・飲料	7	0.0	85.7	14.3	-14.3
	繊維・衣服	6	0.0	16.7	83.3	-83.3
	木材・家具	1	0.0	0.0	100.0	-100.0
造	紙・出版・印刷	6	0.0	50.0	50.0	-50.0
	化学・プラスチック	17	5.9	64.7	29.4	-23.5
	鉄鋼・非鉄金属	14	7.1	64.3	28.6	-21.4
	金属製品	16	6.3	31.3	62.5	-56.3
	一般機械	18	0.0	27.8	72.2	-72.2
業	電気機械	10	10.0	40.0	50.0	-40.0
	その他の製造業	11	0.0	54.5	45.5	-45.5
	製造業計	106	3.8	47.2	49.1	-45.3

【受注状況】

前期と比べた当期の受注状況は、増加 4.7%、横這 21.5%、減少 73.8%となっている。増加企業は 2 業種にみられるが、減少が全業種にみられる。総合 D.I は マイナス 69.2P と前期に比べると改善がみられるものの、依然として悪化傾向にある。

業種別では、減少企業が全業種にみられるが、このうち、鉄鋼・非鉄金属を除く、9 業種で多数を占めている。(表 11)

表 11. 受注状況

業 種	受注状況は 前期に比べ					
	件数	増加	横這	減少	D.I	
製	食料・飲料	7	0.0	42.9	57.1	-57.1
	繊維・衣服	7	0.0	14.3	85.7	-85.7
	木材・家具	1	0.0	0.0	100.0	-100.0
造	紙・出版・印刷	6	0.0	16.7	83.3	-83.3
	化学・プラスチック	17	0.0	35.3	64.7	-64.7
	鉄鋼・非鉄金属	14	28.6	35.7	35.7	-7.1
業	金属製品	16	6.3	6.3	87.5	-81.3
	一般機械	18	0.0	11.1	88.9	-88.9
	電気機械	10	0.0	10.0	90.0	-90.0
	その他の製造業	11	0.0	27.3	72.7	-72.7
	製造業計	107	4.7	21.5	73.8	-69.2

【設備投資額】

前年同期と比べた当期の設備投資額は、増加 4.9%、横這 26.2%、減少 68.9%となった。総合 D.I は マイナス 64.1P となり、減少傾向が一層強くなっている。

業種別では、7 業種で増加は皆無となっている。(表 12)

表 12. 設備投資額

業 種	設備投資額は 前年同期に比べ					
	件数	増加	横這	減少	D.I	
製	食料・飲料	7	0.0	71.4	28.6	-28.6
	繊維・衣服	5	0.0	40.0	60.0	-60.0
	木材・家具	1	0.0	0.0	100.0	-100.0
造	紙・出版・印刷	5	0.0	60.0	40.0	-40.0
	化学・プラスチック	16	12.5	18.8	68.8	-56.3
	鉄鋼・非鉄金属	14	0.0	7.1	92.9	-92.9
業	金属製品	16	12.5	18.8	68.8	-56.3
	一般機械	18	5.6	22.2	72.2	-66.7
	電気機械	10	0.0	10.0	90.0	-90.0
	その他の製造業	11	0.0	45.5	54.5	-54.5
	製造業計	103	4.9	26.2	68.9	-64.1

【向こう3ヶ月の景況】

来期の景気見通しは、好転 15.0%、横這 31.8% 悪化 53.3%となっている。悪化見通しが半数以上を占めている。総合 D.I は マイナス 38.3P で、前期に比べると改善している。

業種別では、鉄鋼・非鉄金属以外の全ての業種で、悪化が好転を上回っている。(表13)

表 13. 向こう3ヶ月の景況

業 種	向こう 3ヶ月の景況					
	件数	好転	横這	悪化	D.I	
製 造 業	食料・飲料	7	14.3	14.3	71.4	-57.1
	繊維・衣服	7	14.3	14.3	71.4	-57.1
	木材・家具	1	0.0	0.0	100.0	-100.0
	紙・出版・印刷	6	16.7	33.3	50.0	-33.3
	化学・プラスチック	17	5.9	23.5	70.6	-64.7
	鉄鋼・非鉄金属	14	35.7	35.7	28.6	7.1
	金属製品	16	18.8	31.3	50.0	-31.3
	一般機械	18	5.6	27.8	66.7	-61.1
	電気機械	10	20.0	40.0	40.0	-20.0
	その他の製造業	11	9.1	63.6	27.3	-18.2
製造業計	107	15.0	31.8	53.3	-38.3	

2. 建設業の景気動向

建設業の売上額は、半数以上の企業で減少しており、深刻な売上不振に陥っている。工事引合件数も、依然として減少企業が大勢を占めている。受注状況も、前期と同様に悪化企業が大勢を占めており、一段と厳しい状況にある。

工事引合件数は、増加企業が一部みられるものの、減少企業が大勢を占めている。資材仕入額は、横這が大勢を占めている。

労務費は、横這が大多数を占め落ち着いた状態にある。

採算状況は、悪化が大勢を占めるものの、好転企業も僅かにみられ、D.Iは僅かに改善している。

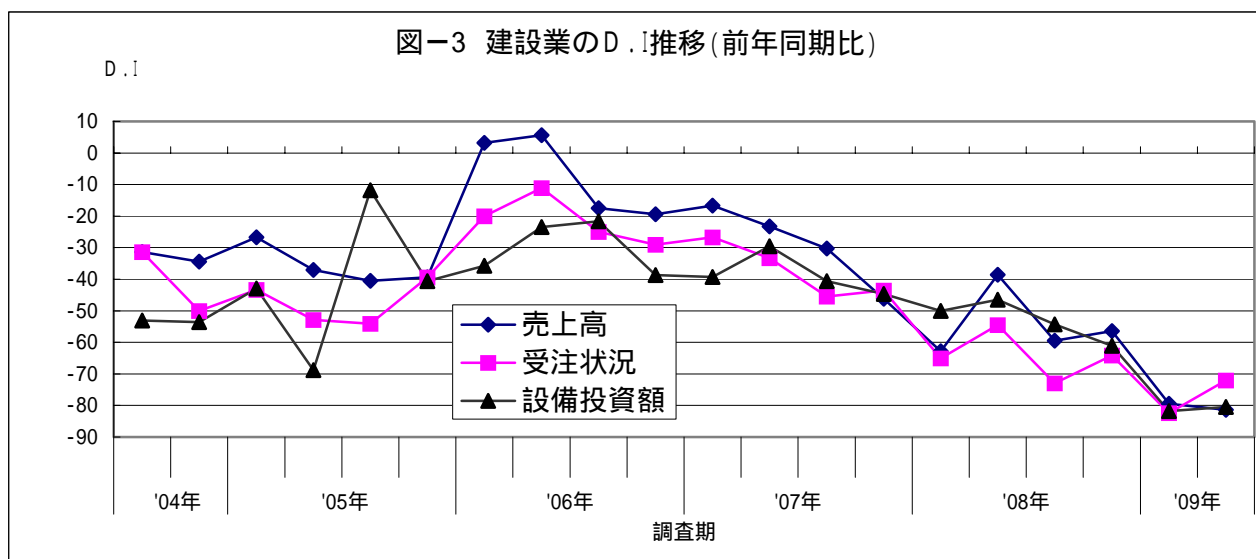
資金繰りは、好転企業が皆無で、横這企業が半数以上を占めている。

前年同期比では、売上額は、減少企業が大多数を占めており、D.Iはマイナス81.4Pと更に悪化している。受注状況についても、D.Iはマイナス72.1Pと厳しい状況である。設備投資は、増加企業は皆無で、減少企業が大勢を占めており低迷状態が続いている。

向こう3ヶ月の景況感は、好転見通しが少数あるものの、相変わらず厳しい景況感となっている。(表14、図3)

表 14. 建設業の景気動向

景気動向指標	事業所数	増加	横這	減少	D.I	
		不足	適正	過剰		
		値上	横這	値下		
		好転	横這	悪化		
前期比	売上額	42	7.1	35.7	57.1	-50.0
	資材仕入額	43	16.3	67.4	16.3	0.0
	労務費	43	2.3	83.7	14.0	-11.6
	工事引合件数	43	7.0	18.6	74.4	-67.4
	受注単価	43	0.0	41.9	58.1	-58.1
	採算状況	42	2.4	31.0	66.7	-64.3
	資金繰り	42	0.0	52.4	47.6	-47.6
	受注状況	41	2.4	22.0	75.6	-73.2
	向こう3ヶ月の景況	42	2.4	33.3	64.3	-61.9
前年同期比	売上額	43	0.0	18.6	81.4	-81.4
	受注状況	43	0.0	27.9	72.1	-72.1
	設備投資額	41	0.0	19.5	80.5	-80.5



3.卸売業の景気動向

売上額は、依然減少企業が大勢を占めているが、D.Iのマイナス幅は前期に比べ大幅に縮小している。販売先数は、横這企業と減少企業が拮抗している。客単価は、値上がり企業が僅かにみられるものの、値下がり企業が半数以上を占めており、下落傾向が続いている。商品在庫は、38.5%が過剰で、前期に引き続き過剰傾向がみられる。

商品仕入価格は、横這企業が過半数を占めている。商品販売

価格は、横這が半数を占めるものの、値下がり傾向がみられる。

荒利益率と採算状況は、好転企業がみられるものの、依然として状況は厳しい。

資金繰りも、好転企業は皆無で、横這企業が8割以上を占めている。

前年同期比では、売上額のD.Iはマイナス92.3Pと悪化しており、減少企業が9割以上を占めている。販売先数は、減少企業が大勢を占めていることに変わりはない。

向こう3ヶ月の景況感は、好転見通しが僅かにみられるが、悪化が大勢を占めており、先行景況感に明るさはない。(表15、図4)

表 15. 卸売業の景気動向

景気動向指標	事業所数	増加	横這	減少	D.I	
		不足	適正	過剰		
		値上	横這	値下		
		好転	横這	悪化		
前期比	売上額	13	15.4	23.1	61.5	-46.2
	販売先数	13	7.7	46.2	46.2	-38.5
	客単価	13	7.7	30.8	61.5	-53.8
	商品仕入価格	12	16.7	58.3	25.0	-8.3
	商品在庫	13	0.0	61.5	38.5	-38.5
	商品販売価格	12	8.3	50.0	41.7	-33.3
	採算状況	13	15.4	23.1	61.5	-46.2
	資金繰り	13	0.0	84.6	15.4	-15.4
	荒利益率	13	15.4	38.5	46.2	-30.8
	向こう3ヶ月の景況	12	8.3	33.3	58.3	-50.0
前年同期比	売上額	13	0.0	7.7	92.3	-92.3
	販売先数	13	0.0	30.8	69.2	-69.2
	設備投資額	13	7.7	0.0	92.3	-84.6

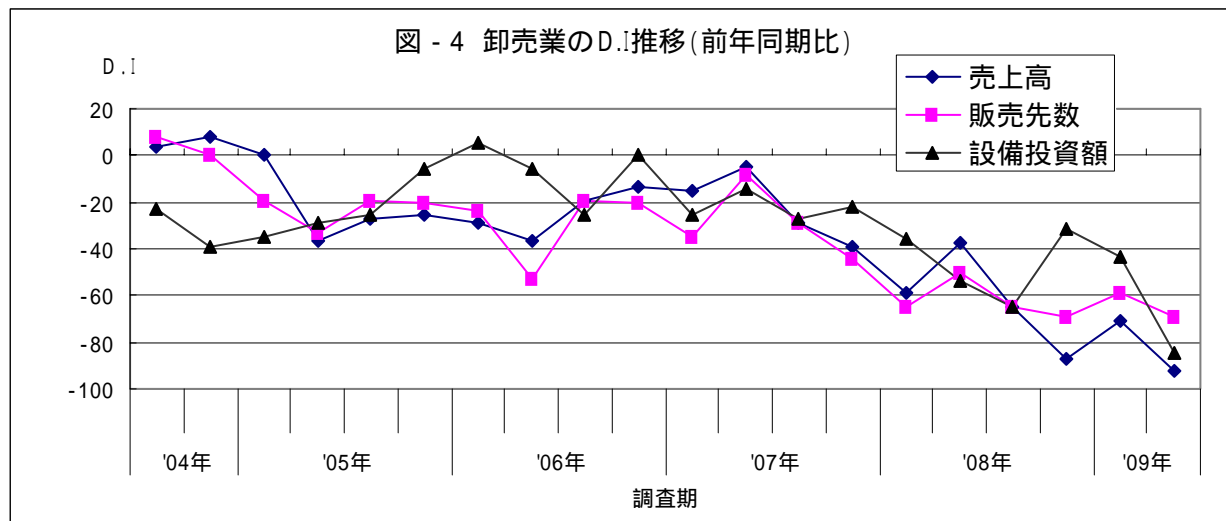
価格は、横這が半数を占めるものの、値下がり傾向がみられる。

荒利益率と採算状況は、好転企業がみられるものの、依然として状況は厳しい。

資金繰りも、好転企業は皆無で、横這企業が8割以上を占めている。

前年同期比では、売上額のD.Iはマイナス92.3Pと悪化しており、減少企業が9割以上を占めている。販売先数は、減少企業が大勢を占めていることに変わりはない。

向こう3ヶ月の景況感は、好転見通しが僅かにみられるが、悪化が大勢を占めており、先行景況感に明るさはない。(表15、図4)



4.小売業の景気動向

小売業の売上額は、減少店が大半を占め、D.Iはマイナス51.3Pとなっている。客数も、減少店が半数以上を占めている。客単価は、減少店が増加している。商品在庫は、適正水準の店が半数以上を占めているが、依然として過剰傾向がみられる。

商品仕入価格は、適正水準の店が半数以上を占めている。

商品販売価格は、値下げ店が増加し、前期に引き続き下落傾向にある。

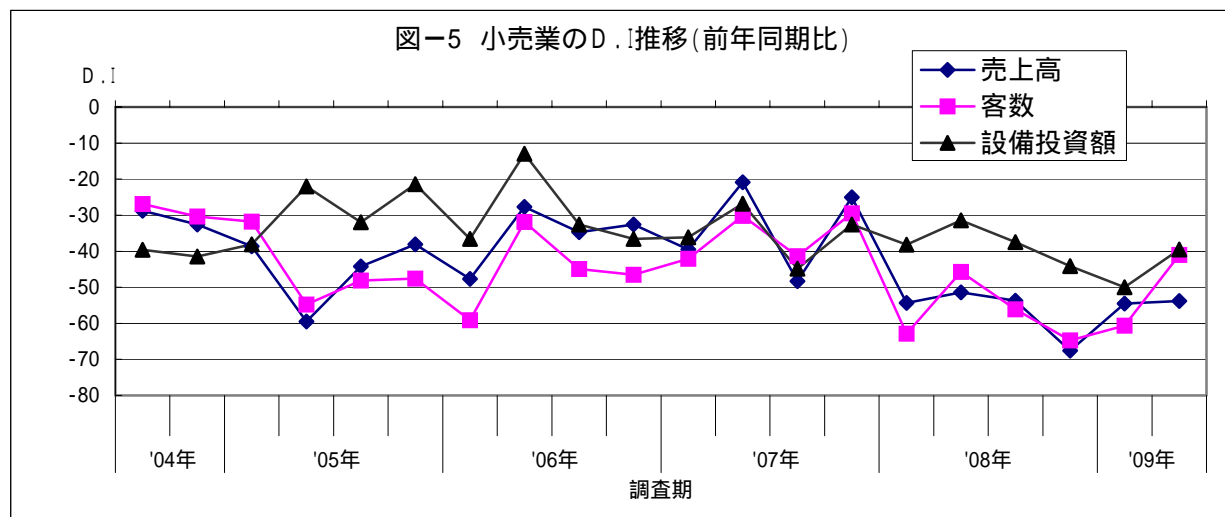
荒利益率は、好転が僅かにみられるものの、悪化店が大勢を占めていることに変わりはない。資金繰りは、悪化店が半数を超えている。採算状況も、好転店が僅かにみられるが、悪化店が過半数を占めていて、依然として厳しい状況である。

表 16. 小売業の景気動向

景気動向指標	事業所数	増加	横這	減少	D.I	
		不足	適正	過剰		
		値上	横這	値下		
		好転	横這	悪化		
前期比	売上額	39	15.4	17.9	66.7	-51.3
	客数	39	15.4	30.8	53.8	-38.5
	客単価	39	2.6	33.3	64.1	-61.5
	商品仕入価格	38	13.2	65.8	21.1	-7.9
	商品在庫	39	2.6	56.4	41.0	-38.5
	商品販売価格	38	13.2	34.2	52.6	-39.5
	採算状況	39	5.1	33.3	61.5	-56.4
	資金繰り	39	5.1	41.0	53.8	-48.7
	荒利益率	39	2.6	33.3	64.1	-61.5
	向こう3ヶ月の景況	38	7.9	34.2	57.9	-50.0
前年同期比	売上額	39	10.3	25.6	64.1	-53.8
	客数	39	12.8	33.3	53.8	-41.0
	設備投資額	38	10.5	39.5	50.0	-39.5

前年同期比では、売上額は、増加店があるものの、減少店が多数を占めている。客数も、増加店があるものの、減少店が半数を占めている。設備投資額は、減少店が半数を占めており、低迷状態が続いている。

向こう3ヶ月の景況感は、好転見通しが僅かにあるものの、悪化見通しが多数を占め景況感は暗い。(表16、図5)



5. 飲食店の景気動向

飲食店の売上額は、悪化店が更に増えており、大勢を占めている。客数も、悪化店が8割を占めている。客単価も、悪化店が増加している。

荒利益率は、好転した店が皆無で、悪化店が大勢を占めている。

資金繰りは、好転が皆無で回復の動きはみられない。

採算状況も、好転した店は皆無で、D.Iのマイナス幅が拡大している。

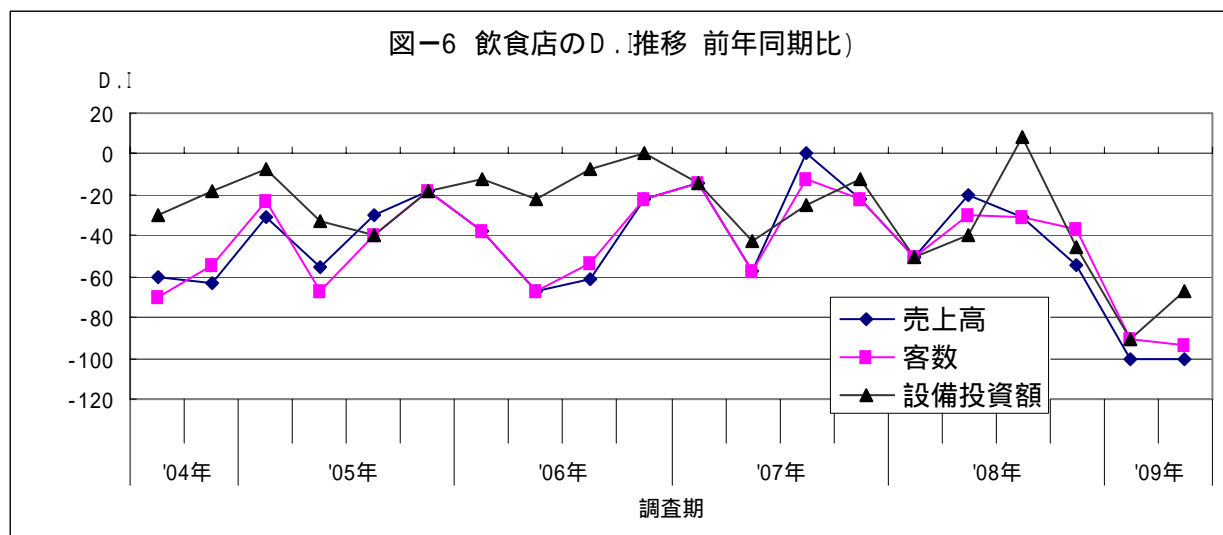
前年同期比では、売上額は全店で減少し、D.Iは悪化している。客数も、同様の傾向を示している。

設備投資額は、減少店が多数を占めているが、D.Iのマイナス幅は縮小している。

表 17. 飲食店の景気動向

景気動向指標	事業所数	増加	横這	減少	D.I	
		不足	適正	過剰		
		値上	横這	値下		
		好転	横這	悪化		
前期比	売上額	14	0.0	7.1	92.9	-92.9
	客数	15	0.0	20.0	80.0	-80.0
	客単価	15	6.7	26.7	66.7	-60.0
	採算状況	15	0.0	13.3	86.7	-86.7
	資金繰り	15	0.0	33.3	66.7	-66.7
	荒利益率	15	0.0	13.3	86.7	-86.7
	向こう3ヶ月の景況	14	0.0	42.9	57.1	-57.1
前年同期比	売上額	15	0.0	0.0	100.0	-100.0
	客数	15	0.0	6.7	93.3	-93.3
	設備投資額	15	6.7	20.0	73.3	-66.7

向こう3ヶ月の景況感は、好転見通しが皆無で、悪化が半数以上を占め、先行き見通しは依然として厳しい。(表17、図6)



6. サービス業の景気動向

サービス業の売上額は、増加店が増加したものの、減少店が半数を占めている。

客数も、減少店が半数を占めているが、D.Iは33.3%と、悪化幅は縮小している。

客単価は、増加店は僅かで、横這店と減少店が拮抗している。

荒利益率は、悪化が過半数を占め、D.Iはマイナス50.0Pとなっている。

採算状況も、好転企業が僅かにみられるが、D.Iはマイナス52.8Pと依然として厳しい状況である。

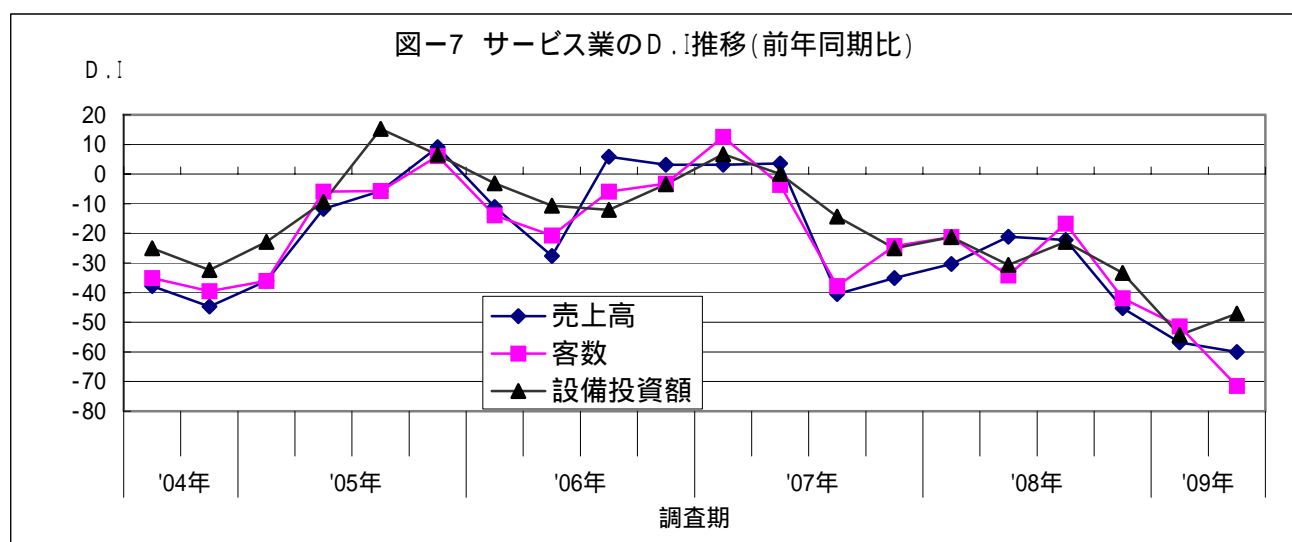
資金繰りも、悪化が半数を占めている。

前年同期比では、売上額は、減少店が増加し、D.Iは悪化している。客数も、減少店が7割以上を占めている。設備投資額も、減少企業が5割を超えて低迷状態が続いている。

向こう3ヶ月の景況感は、悪化見通しが減少したものの、依然として先行景況感に明るさはない。(表18、図7)

表 18. サービス業の景気動向

景気動向指標	事業所数	増加	横這	減少	D.I	
		不足	適正	過剰		
		値上	横這	値下		
		好転	横這	悪化		
前期比	売上額	36	25.0	25.0	50.0	-25.0
	客数	36	16.7	33.3	50.0	-33.3
	客単価	36	5.6	47.2	47.2	-41.7
	採算状況	36	5.6	36.1	58.3	-52.8
	資金繰り	36	5.6	44.4	50.0	-44.4
	荒利益率	36	5.6	38.9	55.6	-50.0
	向こう3ヶ月の景況	34	5.9	52.9	41.2	-35.3
前年同期比	売上額	35	11.4	17.1	71.4	-60.0
	客数	35	5.7	17.1	77.1	-71.4
	設備投資額	34	8.8	35.3	55.9	-47.1



自由意見（原文のまま）

業種名	規模	自由意見
衣服・その他 繊維製造業	A	最高の技術についていく事は大変だが、必要とされていると思うしかない。やはり技術。
	B	こんな時こそチャンスと前向きにとらえられるか、商売に対する執念が問われていると思う。 海外商品と価格面で対抗できず、前途に希望が持てません。廃業される方、倒産される方が目立ちます。それにともなって売上高は減です。どこまで続くかわかりませんが、現在借入金0、支払手形0、割引手形0、現金払い。
木材・木製品 製造業	E	一部の業種では明るい兆しが出てきたが、当業界は半年遅れの回復になるのでまだまだ厳しい状況です。
パルプ・紙・ 紙加工品製造業	B	益々厳しさが増加しているように思います。
	C	景気はまだまだ良くありません。
	E	製紙業界の減産が続く受注が減少している。回復の見込み当分なし。
鉄鋼業	C	営業活動の強化も実績出す。 平成21年1～3月と比較し、良くなったとは言え、昨年と比較するとまだまだである。早く昨年の7割程度まで回復して欲しいものである。
	G	4月を底に上向きにはなりつつある。
非鉄金属製造業	C	現時点での受注額増加は一時的なものと思っております。先は未だ不透明です。
	F	材料の値上り分が製品販売価格に転嫁できない。
金属製品製造業	A	1ヶ月の水揚げが、従業員の給料より下回るようになってきた。家庭の貯金をつぎ込んで従業員を養っている経営状態です。
	B	受注状況0は我が社50年来始まって以来。早く良くなって欲しい。
	E	金土日月と週4日休んでいる。いつまでどん底が続くのか。少しでも明るくなるのが皆目見えない。
	F	工場から音が消えた。 ほとんど「何のために？」事業をしているのかわからない！！景気回復の兆し！？どこの話でしょうか？
一般機械器具 製造業	B	仕事がない。
	C	平成21年度は厳しい。
	E	雇用調整助成金のおかげで、退職者(リストラ)をせずにすんでいるが、今年中の業界動向によっては厳しい状況に突入する懸念は残っている。
	F	設備投資後の急な減産により、運転資金の対応に大変困った。会社の態勢が、売上利益等と合致できない。
電気機械器具 製造業	C	大不況で、立ち直りかけた大企業は遠慮なく海外で物作りを始めるようだ。消費者・国民が安い物に群がらずに国産を愛用し、国内の産業を自分達で大切にしたい流れを、官民で作って欲しい。
		ますます悪くなっている。原材料高 製品安 受注減少。
	E	受注見通しが悪く、例年夏場の繁忙期を迎えないで決算日(9月)を迎えるのか？原材料が値上げした割合で下がらないため、得意先対応に苦慮している。
		受注が上向いてこない。 セーフティネットを拡大。 未だ設備投資は様子見であり、市場は依然先行き不透明です。

自由意見（原文のまま）

業 種 名	規模	自 由 意 見
総合工事業	B	受注が一向に良ならず、今年はこのままで行くしかない。
	C	苦しい毎日が続きます。仕事が欲しいです。公共工事くじが当たるよう、毎日神頼みです。賽銭代も出ませんわ！
	G	少なくとも今年中は非常に厳しい状況が続くと思われる。
職別工事業	B	この悪さは、初めてです。どこまで行くか。仕事がないです。悪い、悪いです。
	C	何とかして！
設備工事業	B	平成20年12月末及び平成21年1月末の排ガス規制による、車両の設備投資で、資金繰りで経営を圧迫している。
飲食料品卸売業	B	毎年毎年減少していきます。あと3年もつかどうかです。社員も減らしています。
織物・衣服・身の回り品小売業	B	大変厳しい日々が続きます。景気対策を早く打ち出して欲しい。
飲食料品小売業	C	唯一の関心事「採算割れはいつか？」
		小売販売業は全滅。大企業に食われるだけ。
自動車・自転車小売業	B	当 枚方、北大阪地区に活力のあるイベント他なく、活気がなくなってきている感じ。
	D	枚方市としても早く活性化の策を考えて下さい。
家具・建具・じゅう器小売業	B	仕事が今年に入ってからぜんぜんありません。まず工務店様新築工事がなくなりました。3月4月に1度リフォーム工事あるのみです。 新店舗建設中で、せわしなくなった。あと5ヶ月間、頑張るのみである。
	C	状況はどんどん悪化していると思われる。特に中小企業については先行きが暗い。消費が伸びないため、中小企業対策が急務。
その他の小売業	C	商売をしていく中であまりガソリンが上がって欲しくないですね！色々悪影響が出ています。
一般飲食店	B	人通りが減少した。あちこちに店舗が増えたためだろうか？
		巣ごもり家庭の自家調理に低価格志向、大手飲食、寿司その他外食店舗の増加等により出前件数の減少イコール利益の減少。
		本当に飲食業は悪いです。
E	サービス業では最悪期は終わっていない。	
旅館、その他の宿泊所	C	セーフティネットが働いて、経済が安定してくれるといいのですが……。
専門サービス業	B	同業他社共に業績悪化しております。地球温暖化、業績寒冷化です。
廃棄物処理業	E	とても苦勞しています。何とかしたいと思って頑張っていますが……。

規模区分 A = 1～3人、B = 4～9人、C = 10～19人、D = 20～29人、
E = 30～49人、F = 50～99人、G = 100人以上